

宿縁

一月号

浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL 〇四七―三七二一〇二九二
FAX 〇四七―三七二一〇二六二

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

白道を行く

勇気を持つとう



例年になく厳しい状況下の年明けとなりましたが、皆様にはどのようなお心で新年をお迎えでしょうか。
今、私たちは新型コロナウイルス感染拡大によって壊された日常の変化をただ憂えるのではなく、置かれた事態を事実として受け入れながら、新たな道を発見する勇気を持ちたいものです。
過去の様々な危機の歴史(スペイン風邪の大流行や戦後の飢餓等)もその時代に生きた人々がそこから新たな生き方を見つけ克服したからこそ今日につながっています。

一步を踏み出す勇気とは出世間の道を探ねることです。日頃の世間に行き詰まったときは世間から出る勇気が必要です。涅槃経(ねはんぎょう)に次の言葉があります。

『闇は世間であり、明は出世間である。』

また、闇は煩惱であり、明は智慧である。』つまり日頃の私たちの世間というものは闇の中を生きているようで本当のことが何もわかっていない、それに比べて出世間は真理を語る仏道のこと、誰でも明るい世界に導かれます。闇にあるということは何も見えない妄念の中で生きていくからあつちへぶつかりこつちへぶつかりの生き方です。世間とはそれぞれが自分の経験を判断基準としていますから、みんな違うので普遍性がなく混乱するのです。

それではなぜ素直に出世間道に出られないのでしょうか。

有名な『歎異抄』第九章に、

「果てしなく遠い昔からこれまで繰り返して続けた、苦悩に満ちたこの迷いの世界は捨てがたく、まだ目覚めたことのない真に明るい世界に心ひかれたいのは、深い煩惱が盛んだからなのです。」と親鸞聖人は闇に迷う私たちの世界を指摘されています。

それで「少し人生を変えてみようか!」と思う人のために『二河白道』の比喻を味わってみましょう。

『ここに一人の人がいて、百千里の遠い道のりを西に向かつて行こうとしている。その途中に、二つの河が現れる。一つは火の河(怒りや憎しみの心)で南にあり、もう一つは水の河(貪りや執着の心)で北にある。その二つの河はそれぞれ幅が百歩で、どちらも深く底がなく、果てしなく南北に続いていて。その水の河と火の河の間にひとすじの白い道がある。その幅はわずか四五寸ほどである。この道の東の岸から西の岸までの長さも、また百歩である。水の河は道に激しく波を打ち寄せ、火の河は炎をあげて道を焼く。水と火とがかわるがわる道に襲いかかり、少しも止むことがない。この人が果てしない広野にさしかかった時、他にはまったく人影はなかった。そこに盗賊や恐ろしい獣がたくさん現れ、この人がただ一人で見つかるを見て、われ先にと襲ってきて殺そうとした。そこで、この人は死をおそれ、すぐに走って西に向かった。その時、突然現れたこの大河を見て次のように思った。『この河は南北に果てしなく、まん中にひとすじの白い道が見えるが、それはきわめて狭い。東西両岸の間は近いけれども、どうして渡ることができない。わたしは今日死んでしまふに違いない。東に引き返そうとすれば、盗賊や恐ろしい獣(自分が本尊と思ううぬぼれ心)が次第にせまってくる。南や北へ逃げ去ろうとすれば、恐ろしい獣や毒虫(仏法に背を向ける心)が先を争ってわたしに向かつてくる。西に向かつて道をたどっていかうとすれば、また恐らくこの水と火の河に落ちるであろう。』と。こう思って、とても言

葉にいい表すことができないほど、恐れおののいた。そこで次のように考えた。『わたしは今、引き返しても死ぬ、とどまっても死ぬ、進んでも死ぬ。どうしても死を免れないのなら、むしろこの道をたどって前に進もう。すでにこの道があるのだから、必ず渡れるに違いない』と。
こう考えた時、にわか東の岸(釈尊のこと)に、(そなたは、ためらうことなく、ただこの道をたどって行け。決して死ぬことはないであろう。もし、そのままここにいるなら必ず死ぬであろう。』と人の進む声(阿彌陀)が聞えた。また、西の岸の人(阿彌陀)の本願(阿彌陀)がいて、(そなたは一心にためらうことなくまっすぐに来るがよい。わたしがそなたを護ろう。』この人は、もはや、こちらの岸から(行け)と勧められ、向こうの岸から(来るがよい)と喚ばれるのを聞いて、ためらうことなく、信じて道を進み、間もなく西の岸にたどり着いて、永久にさまざまなわざわいを離れ、善き友と会って、喜びも楽しみも尽きることがなかった。』以上の譬えです。
盗賊や恐ろしい獣、毒虫はいったい何を指すのかそれぞれが考えてみたい事です。ひとすじの白道を行くには常に内外に敵が潜んでいます。しかし「薪に火をつきつれば離れることなし」と言われるように、薪は行者の心、火はすべてのものを捨てることな輝き生かす阿彌陀さまの光明です。仏法聴聞あつてこそ阿彌陀さまの光明がわが身を包み、わざわいや困難を克服する力が恵まれるのです。
さあ白道を行く一步を踏み出しましょう。

【寺灯雑記】

○壮年会法座にて福島正次氏を偲ぶ

12/13

今年度途中より、壮年会法座において正信偈のお勤め、住職の法話に続き、会員による感話をお話しいただいています。今まで、「やまとことば(話し言葉)」や「仏教の出会い」、「漢方養生」についてのお話を伺ってきましたが、十一月の法座では、福島道宏さんより、ご自身の父親である福島正次さん(平成十六年にご往生)のことをお聞かせいただき感銘致しました。

中原寺の門徒総代でもあり、築地本願寺総会所における世話人も務められていた正次さんですが、家庭にあつては非常に厳しい人で子どもたち(四男五女)はいつも震え上がっていたそうです。ある日のこと、長女と長男はあまりにも厳しい父の態度に耐えられず二人で家出をしようと思いましたが、あとに残す母親のことが気にかかり思い止まったというエピソードも話されました。昭和30年代前半頃から築地本願寺の晨朝のお勤めから毎日休むことなく参るようになり、法座で講師の話をお聞かせされました。そして、折角の法話を自分一人だけでなく家族の者に聞かせるには我が家で法座を開くのが一番だと、42年頃から毎月二十三日(両親の命日)の夜に家庭法座を晩年に至るまで欠かさずに開きました。いつも端正に和服を着こなし、築地本願寺での法話直後に唱える「ご領解出言!」と大きな響く声で発音されていた姿が有名でした。今、福島家では毎月ではなくなりました。が法座が相続されています。

【仏教語講座「しよっちゅう」】

「あの子はしよっちゅう、ゲームばかりやっている」
「あいつは、しよっちゅう、遅刻している」

いつも、常に、終始というときに「しよっちゅう」という言葉を使います。

「え、これも仏教語?」

まあ、そんなに驚かないで、話を聞いてください。

お釈迦さまが説法をはじめられて、六十人の弟子ができたときのことです。彼らを集めて、

「弟子たちよ、汝(なんじ)らは世の束縛を脱して、心の自由を体得した。これからは世の人びとの利益(りやく)と幸福のために、諸国を遍歴せよ。二人して一つの道を行くな」
と、宣言されました。

そしてさらに、「初めに善(よ)く、中ごろも善く、終わりの善く、道理と表現を兼ね備えた法を説け」と諭されたのでした。

『法華経』にも「正法(しようぼう)を演説したもうに、初善(しよぜん)、中善(ちゆうぜん)、後善(ごぜん)なり」とあります。

この「所中終(後)」が訛(なま)って「しよっちゅう」となりました。

だから、この言葉は悪いことではなく、善いことに使ってもらいたいものですね。

「あの人は、しよっちゅうお寺にお参りして、いつも仏さまのお話を聞いている…」なんて。
(大乘2020年1月号より転載)

【仏教入門Q&A】

Qお経とは、どういう意味ですか?

A「経」とは、インドのサンスクリット語の「ストトラ」を漢訳した言葉です。ストトラには縦糸という意味がありますから、中国では「経」と訳されたといわれています。それについて中国の善導大師は、布を織るときにまず縦糸(経)を張り、そこへ横糸(緯)を織り込んで鮮やかな模様のある布が織り上げられていくことを譬えとして説明されています。

すなわち縦糸は横糸をしつかりと保って美しい布を織りあげていくように、お経の言葉(縦糸)は、仏陀が私どもに知らせたいと思われる豊かな真理(横糸)をよく保って、私どもにわかるように伝達してくださいませからストトラ(経)というのです。

なお「経」には「常」という意味もあります。常とは常住不変の真理ということで、永遠に変わらない真理を説かれたものだからです。同じく中国の曇鸞大師は、お経に説かれた真理は、常に世に行なわれて、生きとし生けるすべてのものに、すばらしい利益をもたらすから「経」といふと言われています。

【法要・法座の案内】

○元旦修正会

*一月一日(祝) 午前八時

お勤めー正信念仏偈

年頭法話ー住職・前住職

*コロナウイルス感染防止のため、ご流盃の儀・お雑煮の接待はございません。

○婦人会年次総会・法座

*一月九日(土) 午後一時

総会

法話：前住職(正信偈解説)

○常例法座

*一月十七日(日) 午後一時

お勤め：正信偈

法話：前住職

○壮年会年次総会・法座

*一月二十四日(日) 午後二時三〇分

総会

○教行信証を学ぶ(信文類)

*一月三十日(土) 午後二時

法話：前住職

○婦人会法座

*二月六日(土) 午後一時

法話：前住職(正信偈解説)

○壮年会法座

*二月七日(日) 午後三時

法話：住職(仏説阿弥陀経解説)

感話：壮年会会員

※各法要・法座にご参詣の際はマスクの着用をお願いいたします。

【一月の掲示板のことば】

見えない木の根は
常に幹や枝へ 栄養補給をしている

※「YouTube 中原寺」で検索

前住職が15分程の法話を月に二回配信
中です。ご覧ください。